

コンクリートの凍結融解抵抗性の評価方法に関する研究委員会
第3回全体会議議事録（案）

日 時：平成19年12月5日(水) 11:00～13:00

場 所：JCI 会議室

出席者：河野委員長、田口副主査、名和主査、阿波副主査、近松主査、片平副主査、石川委員、
遠藤委員、緒方委員、小山田委員、加藤委員、十河委員、高田龍一委員、高橋委員、
濱委員、林委員、林田委員、三橋委員、宮里委員、井上氏(事務局)

配布資料：

- 4-1 第2回委員会議事録(案)
- 4-2 第3章(草稿)
- 4-3-1 第6回性能評価WG議事録(案)
- 4-3-2 第4章 目次案
- 4-4 第5章 目次案

議事：

1. 各WGの取り纏め状況の説明およびWG間で調整が必要な事項の抽出

資料4-2～4-4をもとに、田口副主査、名和主査ならびに近松主査から、報告書作成に向けた各WGの活動状況等が説明された。主な項目は以下のようである。

- ・異なる章で同じ図を掲載することは、可能な限り避ける。
- ・統一した用語を報告書で使用するため、3.1.1の「凍害および劣化形態の定義」を早目に作成し、全委員へメールで配信する。
- ・第3章(WG1)と第4章(WG2)で、メカニズムに関する掲載が重なっている。完成した報告書の原案を見比べながら、調整する。
- ・事例集は、紙印刷ではなく、CD媒体での配布とする。
- ・3～5章を総じた第6章で、凍害の合理的な評価方法をまとめる。例えば、①個別の構造物の設計に反映する凍害評価方法(構造物の立地条件も考慮した総合的判断、部材の立地条件を考慮したJIS A 1148の前養生)、②材料の評価に反映する凍害評価方法←JIS A 6204に付随して用いるJIS A 1148の簡略化(【本報告書の範囲】JIS A 1148に微修正を加えることの推奨、【今後の課題】実構造物での調査を踏まえた試験方法の提案、複数の試験の組合せにより統合的に耐凍害性を評価)、など。

2. 今後の予定

1) 次回：今後、全体委員会は開催しない。WG1とWG2は各1回、WG3は2回開催する。幹事会を開催し、第6章を検討する。

2) 来年の年次大会関係：報告書(A4・10ページ)の締切りは4月中旬とし、ポスター(4枚)の締切りは5月上旬とする。担当を右表に示す。また、講習会を充実させるため、研究集会への参加は辞退する。

内容	担当	報告書	ポスター
趣旨	幹事	p.1	1枚目
環境評価	WG1	pp.2-4	2枚目
性能評価	WG2	pp.5-7	3枚目
試験方法	WG3	pp.8-10	4枚目

3) 委員会報告会：

- ・東京 本部主催とする。会場は JCI-11 階とし、8 月下旬に開催する。2 月号に会告を掲載する。「2～3 時間の報告会」＋「シンポジウム」。報告書とシンポジウム論文集を合冊（＝1 冊の本にまとめる）とする。
- ・札幌 支部主催とする。支部が会告を出す。「本委員会の講習会」＋「支部の研究委員会の報告会」。

以上（作成：宮里、確認：河野）